



# 高山植物等保護。ハトロール

## 50年の歩み

中部森林管理局 富山森林管理署

### はじめに

富山森林管理署（以下、富山署）管内の国有林の多くは、富山県東部に位置する山岳地帯で、そのほとんどが中部山岳国立公園に指定されています。

1971年6月に立山・黒部アルペンルートが全線開通し、多くの観光客や登山者が立山・室堂を訪れるようになりました。

全線開通前から、高山植物等の踏み荒らし、ゴミの投げ捨て等が懸念され、自然環境保護に対する啓発活動の必要性が予想されたことから、富山署、地元自治体、山小屋関係者、民間企業等により1971年に立山地区国有林野保護管理協議会が発足し、翌年より室堂地区において高山植物等保護。ハトロールの活動が始まりました。

その後、1979年から1982年にかけて、薬師岳・雲ノ平地区、黒部

地区、白馬・朝日・北又地区でそれぞれ協議会が発足し、現在まで4地区で活動を継続しています。

1972年から50年間、多くの方に支えられ、続けてきた活動について紹介します。

### 活動の概要

活動内容は、観光客や登山者への高山植物等の保護を呼びかける啓発活動、ゴミ拾い等の美化活動、立入禁止区域のグリーンロープ張り、登山道の雪渓切り等です。そのほかにも、観光客や登山者から山や植物の名前、登山のコースタイムなどを聞かれることもありますので、それらへの対応のため、知識やコミュニケーション力も必要とされます（写真1、2）。

#### 管内概要

##### 所在地

富山県富山市黒崎字塚田割 591-2

##### 区域面積

424,758 ha

うち森林面積 285,277 ha

うち国有林面積 104,532 ha

##### 関係自治体

10市4町1村

[富山市、高岡市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、上市町、立山町、入善町、朝日町、舟橋村]



富山森林管理署は、富山県のほぼ中央に位置する富山市に所在し、県内全域を管轄しています。このうち4市4町に所在する10万5千haの国有林・官行造林を管理しており、富山県内の森林面積 28万5千haの約37%を占めています。

管内の国有林は、ブナ等の天然林が5万7千ha(55%)、スギ等の人工林が2千4百ha(2%)、山岳地帯等が4万5千ha(43%)となっており、その多くは、富山県東部の急峻な北アルプスの山岳地帯に位置し、重要な水源地であるとともに、自然景観に優れていることから中部山岳国立公園に指定されるなど登山や自然観察等のレクリエーションの場として毎年多くの方が訪れています。



## 活動での指導内容

1985年以降、登山道外への立ち入りに対する指導件数は大幅に減少しており、パトロール活動がマナー向上に貢献していることがうかがえる一方、近年はストックに対する指導が



写真1 登山者への説明



写真2 登山道の雪渓切り

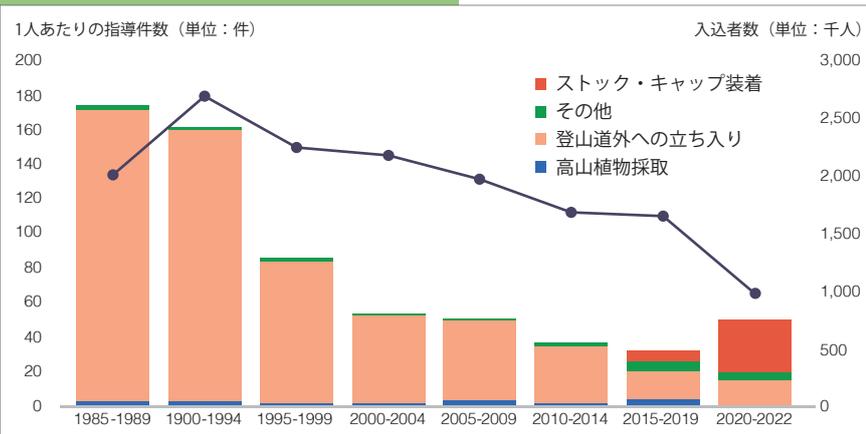


図1 パトロールでの指導件数とその内容



写真3 啓発ポスター

## 今後の課題

北アルプスでは、登山道の損壊や標識等の老朽化が懸念されていますが、広大なエリアで最新の状況や正確な位置情報を把握することが課題となっています。そこでGPS機能付きのカメラで撮影・記録する取組を始めました。今後は、それらの情報を関係者と共有し、有効活用していけるよう取り組んでまいります。

また、パトロール員の年齢は、2000年以前は全員20代以下でしたが、近年は30代以上の割合が増加しています。新型コロナウイルスの影響を受けたこの2、3年は50代までの幅広い年齢の方に協力いただいています(図2)が、高山でのパトロールには、体力や経験が必要で、若い方や登山経験の豊富な

## おわりに

方のご参加を期待しています。

1972年から始まった高山植物等保護パトロールには、これまで延千人以上の方に参加していただきました。今年度は、黒部ダム竣工60周年を控え、立山・黒部アルペンルートにも多くの観光客や登山者の方々の来訪が見込まれます。

山岳地帯の雄大な自然、数多くの希少な動植物等を後世に残すために、今後も地元自治体、山小屋関係者、環境省、民間企業等と共に組織の枠組みを超えて協力してまいります。

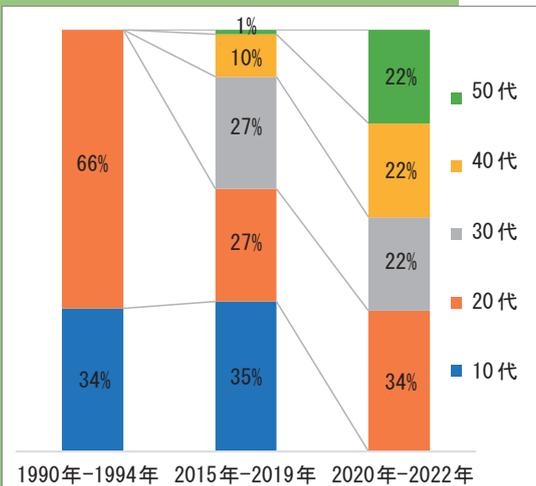


図2 パトロール員の年齢構成